

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	セカンドハウスわくわく			
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 22日 ～ 令和7年 2月 21日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	43名	(回答者数)	27名
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 22日 ～ 令和7年 2月 21日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小集団活動と個別活動のメリハリ (個々にあった活動内容)	スケジュールの中に、個々に合わせて、小集団活動と個別活動を入れている。 集団活動が苦手でも、無理なく場の共有ができるように、1人1人に合わせて対応している。	活動内容についても職員間で考え、マンネリ化しないように工夫していく。
2	職員間での連携や情報交換を行っている。	1人1人の様子を支援後の振り返りや、モニタリング等で職員に情報共有して、支援の統一を行っていく 支援の中で気が付いたことなど、その都度、伝えている。	話し合うための時間を確保する。 情報共有を心がける。
3	保護者学習会を開催し、障がい特性、関り方、保障制度など、理解を深める。	保護者様のニーズに合わせた内容を選んでいる。 参加して頂けるような、雰囲気づくり、環境づくりをする。	保護者様の困りごと、知りたいことなど、お迎え時などの会話などから、情報を取得する。 保護者様との情報共有に努める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様との個別面談に時間が取れていない。	送迎時に保護者様と話を伺うことはあるが、時間を取っての面談は、なかなか時間が取れない。 43名の面談は難しい。	まずは、希望者から面談を始め、段階をおって面談ができるように、していく。 (年1回くらいから)
2	保護者同士の交流の場が少ない。	保護者学習会などは開催しているが、保護者同士が、話をする機会が、ない。	ペアプロのような研修会や、保護者会のようなものを検討してみる。 職員で話し合って考える。
3			